



倉田小だより 12月号



横浜市立倉田小学校

～つながり いきいき 倉田っ子～

支えてくれる人の存在を忘れずに とにかく笑っとけ!

校長 丹羽 多香

11月15日、東京体育館は光と音(振動)に包まれました。聞こえる人も聞こえない人も無言のまま、体の動きだけで未来への希望を表現する様子に心を打たれた人も多いのではないかと思います。

デフリンピック。耳の聞こえないアスリートのために国際的な大会です。4年に1度行われるその大きな大会の100周年大会が、東京で開催されました。

大会前に卓球の亀澤理穂選手のインタビュー記事を読みました。「ボールを目だけで追う選手の集中力がものすごいんです。各選手のリズム感や表情など、聞こえる人の試合と少し違う見方ができると思います。」耳からの情報がない分、相手選手の表情やボールの動きを食い入るように見つめ、自分の打球に思いを込め、集中する姿に感動しました。そして、手話を使つての助言や確認、読話や筆談でのコミュニケーション。聴力の程度やアイデンティティによって、対話の形はそれぞれだと気づきました。聞こえる、聞こえないに関わらず、柔軟なやりとりがあたりまえに生まれる世の中であるといいと強く思いました。

亀澤選手は、5歳になる女の子を育てながら競技を続けるママアスリートです。出産を機に一度やめたデフスポーツに再挑戦します。「金メダルという忘れ物をとりにいく」と話す亀澤選手の笑顔の裏には、自分を信じる強い気持ちと家族を大切に思う気持ちが見え隠れするように感じます。

そんな亀澤選手が大切にしていることは、感謝の気持ちです。卓球に出会い、卓球を続けることができているのは、多くの人の支えや励ましがあったからこそ…。私たちもそうですが、好きだから、得意だからといっても、周りの人の理解や協力がなければどんなことも続けることはできません。応援し支えてくれる人の存在を大切に、「ありがとう」の一言を忘れてはいけないなと思いました。

また、亀澤選手のお母様の口癖「とにかく笑っとけ。」も心に残りました。言葉としては、やや粗雑な感もありますが、辛い、悲しい、と嘆いていても幸せはやってこない、という考えは分かるような気がします。笑うことで明るい気持ちになり、前向きに次の挑戦をめざせるのかもしれませんが。

残念ながら、今大会では、亀澤選手は金メダルに届きませんでした。応援してくれた多くの人の前で、笑顔でインタビューに答える亀澤選手は、すでに次の目標に向かって気持ちがスタートしているようでした。

この先、子どもたちは多くのことに挑戦し、多くの人と関わるなかで、うまくいかずに悩んだり苦しんだりするかもしれませんが、努力が必ずしも実を結ぶとは限らず、自分に失望したり全てを投げ出したりすることもあると思います。そんなとき、目標に向かってまだまだ努力を続けている亀澤選手の姿勢を伝え、声をかけたいと思います。

「支えてくれる人の存在を忘れずに、とにかく笑っとけ!」